

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症防疫

大学病院入口では通院者の体調を確認 学内の感染防止対策に万全を期す

新型コロナウイルスの感染拡大をWHO（世界保健機関）はパンデミックと表明し、流行の長期化が懸念される。首都圏では外出自粛要請がなされ、感染爆発の重要局面を迎えている。このような状況に先んじて、本学および本学病院においてはさまざまな感染拡大防止策を打ち出している。新型コロナウイルス感染症についての基本的かつ正確な知識を職員全員が共有し、病院の感染症対策の基本方針を再認識することで、感染予防に万全を期して取り組んでいく。

本学は今般の新型コロナウイルス感染拡大状況に鑑みて、4月に予定していた入学式などのイベントを中止とし、第1～5学年は、授業開始を5月1日（金）以降に延期することを決定した。第6学年生には講義内容をビデオに収録してインターネット配信をしている。



病院入口前の仮設テントでは通院者の体調確認を実施

確認し、感染が疑われる人にはトリージ（重症度に応じた治療の優先）を行っている。入院患者への面会は禁止とした。大学本館エントランスでも、職員の体温をチェックし、来訪者に対しては体調確認を行うなどの感染防止対策を実施。前島信也病院長は「患者さん、学生、職員のために講じた対策です。皆さまのご理解を賜りたい」と話している。

新型コロナウイルス感染症の基礎知識

口腔細菌学講座 教授 吉田明弘

1. ウイルス学的特徴
コロナウイルスは一本鎖RNAをゲノムとしてもつエンベロープウイルスである。エンベロープとは、脂肪・タンパク質・糖タンパク質からなる膜で、ウイルスが増殖して細胞から出るときに細胞の成分を被ったもの。アルコールなど脂質に作用する薬品で壊れ、エンベロープウイルスはそれにより失活する。ウイルス粒子は直径100～200ナノメートルで、S（スパイク）、M（マトリクス）、E（エンベロープ）の3つのタンパク質から構成される。このうちSタンパク質が宿主細胞の受容体と結合して、細胞内に侵入する。

2. 臨床的特徴
新型コロナウイルス感染症は呼吸器系の感染が主体で、ウイルスの感染部位により上気道炎、気管支炎、肺炎を発症すると考えられる。感染したヒト全員が発症するわけではなく、無症状で経過してウイルスが排除される例もある。潜伏期は約5日で、最長14日程度。症状として発熱、咳、筋肉痛、倦怠感、呼吸困難が比較的多くみられ、頭痛、喀痰、血痰、下痢などを伴う例もみられる。

3. 治療および予防
感染予防の基本は、呼吸器衛生を中心とした標準予防策である。新型コロナウイルスは、擦式アルコール手指消毒薬で感染力を失う。さらに、新型コロナウイルス感染症の確定例およびウイルス感染症の確定例および疑似例には、標準予防策に加えて飛沫予防策と接触予防策を行う。新型コロナウイルスは気道分泌物および糞便から分離されるため、①ウイルスを含む飛沫が目・鼻・口の粘膜に付着するのを防ぐ、②ウイルスが付着した手が目・鼻・口の粘膜に接触するのを防ぐ、の2点に注意する。



大学エントランスでは職員の体温を確認

大学病院の感染症対策基本方針

病院長 前島信也
内科学 教授

新型コロナウイルス感染症の多くは軽症の上気道感染症で治癒するという点ですが、肺炎発症のハイリスク患者を確実に治療につなげて救命していかねばなりません。

感染が拡大した場合、患者数の増加のみならず、本学職員とその家族が罹患し、治療や家族の介護のために勤務困難な状況が発生することも予想されます。さらに物流などの社会機能の低下により医療材料が不足し、大学病院における診療継続ができなくなることも考えられます。

どのような状況となっても、松本歯科大学病院の使命を維持して、この医療圏で必要とされる診療を継続しなくてはなりません。最悪の状況まで考慮しつつ院内感染対策を徹底させて、全職員が共通の自覚のもとに対応していくため、新型コロナウイルス感染症対策会議を立ち上げ、基本方針をはじめとした8項目などを検討しました（左表）。



通院者に体調確認の協力を呼びかけテント内で検温

新型コロナウイルス感染症対策の重点項目

1	基本方針	発生段階別に対応した診療継続計画と優先診療業務の確認
2	患者対応	病院入口で通院者トリージや院内掲示、今後の電話対応や遠隔診療の実施
3	院内感染対策	空間的分離策として疑似患者への院内動線分離とサージカルマスク着用や手指衛生の遵守など標準予防策の徹底
4	受付窓口、臨床検査、放射線検査、薬剤での対応	疑似患者への空間的・時間的分離策や消毒
5	職員対応	毎日の健康管理（出勤前の体温測定など）と安全対策
6	出入り業者への対応	動線を一つにして新型コロナウイルスの持ち込み防止
7	マスクなどの物品管理	個人防護具の在庫数確認と継続使用可能期限の評価
8	情報収集と周知	通院患者や職員への信頼情報の提示

新卒合格率89・4%で全国第8位

歯科医師国家試験合格発表

厚生労働省は3月16日（月）、第113回歯科医師国家試験の合格者を発表した。本学の新卒受験者47人中42人が合格（合格率89・4%）、国公私立全国29歯科大学・歯学部の中で、第8位の結果となった。昨年の75・8%より13・6%上昇し、3年前の第110回歯科医師国家試験の新卒合格率89・1%を超えた。なお、新卒と既卒を合わせた合格者数は64人（合格率61・5%）と健闘した。

今回総出願者数は昨年より75人多い3798人であったが、実際の総受験者数は昨年より21人少ない3211人であった。

第113回歯科医師国家試験新卒合格率（上位8校）

大学名	立	受験者数	合格者数	合格率
東京医科歯科大学歯学部	国	43	42	97.7%
岩手医科大学歯学部	私	35	34	97.1%
東京歯科大学	私	135	130	96.3%
朝日大学歯学部	私	73	70	95.9%
北海道大学歯学部	国	52	47	90.4%
東北大学歯学部	国	50	45	90.0%
九州歯科大学	公	99	89	89.9%
松本歯科大学	私	47	42	89.4%

学関連問題（総論）の難易度が緩和された印象であった。今後本学においては、口腔外科学および歯科補綴学分野における重点的対策が重要であると考えられる。

本学の建学の理念に基づく信頼される歯科医療人および研究者の育成のためには、歯科医師国家試験の合格は単なる通過点でしかないことは言うまでもない。今後、職員と学生が協調し



国家試験に向けて氣勢を上げる6学年生と筆者（中央）

加藤杯争奪剣道大会 全国から剣道部OBが参集 卒業生が新しい部旗を寄贈

追い出しコンパには、総合口腔診療部門の安西正明教授と歯科薬理学講座の十川紀夫教授もご参加くださいました。

卒業生の宇田川琢先輩、椎名哲郎先輩、山口久穂先輩と衛生学院卒業生の松沢舞さんから、卒業記念品として新しい部旗が贈呈されました。これまで使用してきた部旗は10期生（渭東淳行先生、梶谷和男先生、金銅教授、山本和成先生）からの寄贈品でした。新しい部旗はサイズが少しコンパクトになり、より使い勝手のよい旗を寄贈くださいました。これからも新・旧の部旗を大切に引き継いでいきたいと思っています。

MTBペダリング 随想記



元シドニー五輪日本代表
鈴木 雷太

連日、新型コロナウイルス感染症のニュースから目が離せない。先週は海外のウェブサイトを何度も閲覧した。強化選手たちがそれぞれ異なる国々に遠征していたので、移動面や大会の開催状況など少しでも正確な情報を掴むためだ。この時期の海外遠征は5月末に予定していた東京五輪代表選考のポイント獲得のためだったが、国際自転車競技連合が新型コロナウイルス感染症の世界的な影響を見て、五輪選考を3月初旬まで遡ることを決定したため、結局ほとんどの選手が緊急帰国となった。

その東京五輪も延期が決まった。さまざまな問題が出てくることは容易に考えられるが、先が全く見えない状態から一年後の開催というほんやりしたゴールが見えたことは、選手たちにとって一歩前進といった感じか。僕が主催するサイクリングイベントも対応に追われている。地域における経済効果やイベントを楽しむにしてくれている3千人の参加者の気持ちを考えると、何とか開催できないかと日々悩んでいる。

ウイルスという目に見えず、治療薬も治療方法も確立していない人から人へ伝染するという特徴を考えれば、イベントの中止や延期もやむを得ない。経済やイベント、五輪というスポーツの祭典もすべては人が楽しく生活している上に成り立つもので、健康を害す、または死の可能性もある中で行うものではない。ウイルスの脅威もあるが、これをきっかけに世界中で協力し、ウイルスに勝つためにできることをやるのが大切だと思う。

PCC-OSCE 一斉技能試験トライアル実施 歯科医師としての臨床能力と技能的資質を確認



真剣な眼差しで課題に取り組む5学年生

2019年度歯学系臨床実習後臨床能力試験（Post Clinical Clerkship OSCE: Post-CO OSCE）のひとつである、「一斉技能試験トライアル」が2月21日（金）、第5学年生87人を対象に

実習館101実習室において行われた。昨年に引き続き2回目の実施となるが、学生の臨床能力を評価するため、臨床実地試験とパッケージ化して2021年度か



試験開始前にマネキンを確認する教員

ら全国の歯学部・歯科大学で正式運用となる。本学においても第6学年への進級判定に関わる。この一斉技能試験は、歯科医師に求められる標準的かつ必要十分な臨床能力と客観的に適切と判断される技能的資質を有していることを確認するものである。

課題は、①下顎4切歯舌側の歯石除去、②下顎右側第一小臼歯の齲蝕除去、③下顎右側第二小臼歯の根管形成、④下顎左側第二小臼歯の全部金属冠支台歯形成の4題と決められており事前に学生に開示されている。第4学年で実施する共用試験OSCEでは、5分間で課題を実施

臨床実習前知識の総合的理解力を評価

第4学年 共用試験CBT実施

共用試験CBT（Computer Based Testing）本試験が1月31日（金）、キャンパスイン101教室において実施され、第4学年生83人が受験した。

共用試験は、歯科医師免許のない歯学生が、臨床実習において医療行為を行うにあたって、十分な能力を有することを確認するために、事前に適切な評価を受けることを目的に導入された試験であり、CBTとOSCE（Objective Structured Clinical Examination）の2つ



試験室入室前のチェックを受ける4学年生

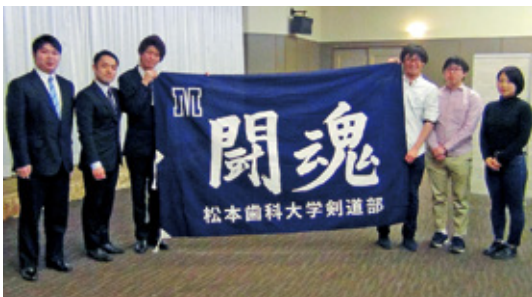
は、診療参加型臨床実習の期間中に実際の患者さんでそれぞれ複数症例を体験している。この試験はマネキンが相手といえども、受験した学生たちは臨床実習と同様に真剣な眼差しで取り組んでいた。

（共用試験運用委員長
総合口腔診療部門 教授 山本昭夫）

社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構から派遣された2人の外部監督者の先生からは、学生の身だしなみや試験の運営

についてお褒めの言葉もいただいた。

試験結果については昨年同様、正解率とIRIT（項目反応理論に基づいた問題ごとの難易度を反映した数値）を併用して評価を行う。全国の平均点が年々上昇していることに対応し、本年度は昨年より高い合格基準が設定されている。学生には相当の頑張りが求められるが、この高いハードルをクリアすること



新しい部旗を持つ部員と卒業生

（剣道部主将 第3学年 大藏太郎）

（口腔解剖学講座 教授 平賀 徹）

台湾彰化女子高級中学一行 78 人が本学を訪問 臨床研修歯科医らと交流し留学への関心高める



本部館前で記念撮影をする彰化女子高級中学一行

台湾の彰化女子高級中学の一行78人が2月4日（火）、本学を訪問した。記念撮影や歓迎セレモニーを行い、台湾出身の本学病院臨床研修歯科医や歯学部学生の案内で病院の施設・設備などを見学。日本の最先端の歯科医療に触れて留学への関心を高めた。

彰化女子高級中学は日本統治時代に創立された公立高校で、毎年2回ほど日本への留学旅行を実施しており、本学訪問も今回で2回目となる。

一行は本部館前にて記念撮影の後、講義館において歓迎セレモニーに参加した。宇田川信之歯学部部長より「本学には多くの台湾出身学生が学んでいます。この機会に日本の歯科医療がどういうものであるかを体感してください」と歓迎の挨拶があった。陳香妃校長は、「今回、松本歯科大学を見学する機会を与えていただき感謝します。学生の皆さんの中には歯の問題で歯科医院にかかったことがある人は多いと思います。日本の歯科医療は台湾より進んでいますので、皆さんの先輩が学ぶこの大学をしっかりと見学してください」と話した。

当日はあいにく歯学部の定期試験期間中で、かつ入学者選抜試験が実施されていたこともあり、本学に在籍する彰化女子高級中学出身の留学生との面談は実現できなかったが、歓迎セレモニー後の病院見学では、台湾出身の盧良全臨床研修歯科医と第5学年の郭子揚君が同行し、4つのグループに分かれてブラークチェックやマイクロスコープ、口臭検査、歯科用レーザーなど普段見ることのできない設備を見学し、日本の最先端医療について説明を受けた。特に口腔内細菌を確認する顕微鏡には多くの学生が大変興味を持ち、自身の口腔内にどれだけの多くの細菌が存在するのか、驚きを持って実感した様子であった。今回これだけ多くの学生が病

症例報告が小児歯科学雑誌に掲載

病院小児歯科 歯科衛生士・加藤那奈さん

本学病院小児歯科の歯科衛生士である加藤那奈さんの症例報告が、このほど小児歯科学雑誌58巻1号に掲載された。

報告は上顎大臼歯部に過剰歯2歯を有し、さらに上顎左側に第四大臼歯の存在を認めた15歳女子についての症例である。本症例では、過剰歯の萌出状態から左側臼歯部の刷掃が困難であり、初診時より加藤さんが担当歯科衛生士となりブラークコントロールを実施した。過剰歯2

という意識が低いのが現状です。口腔健康管理科での歯科衛生士によるプロフェッショナルケアや、リスク管理を通して、地域の方々の口腔健康管理の重要性を、さらに発信していく必要性を感じています。

患者さんによりリラックスした状態でケアを受けていただくため、特別専門外来の個室チェアを使用しています。現在は歯科衛生士2人が専門スタッフとして業務にあたっており、口腔のプロフェッショナルケアをはじめ、唾液検査によるリスク管理や、ご希望に応じてホワイトニングなども行っています。患者さんの全身や口腔の状態、生活背景に合わせた適切なメインテナンスメニューの提供を行うことで、継続的な通院を促し、健康をより長く維持していただくことを目標に、日々業務にあたっています。



歯科衛生士による口腔のプロフェッショナルケア



特別専門外来の個室チェア

臨床参加型実習に向け技能・態度を評価

第4学年 共用試験OSCE実施

2020年度共用試験OSCEが2月15日（土）、第4学年生80人を対象に実施された。公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構より、機構派遣監督者2人、機構視察者1人、外部評価者6人の派遣をいただき、計183人の運営スタッフ

のものと6課題の試験が厳正に行われた。共用試験OSCEの成績は、本学では進級基準と臨床実習参加資格となるため、受験した学生は真剣かつ真摯な態度で取り組んでいた。試験終了後には外部評価者、機構派遣監督者、機

歯科衛生士国家試験結果 衛生学院開校時より 合格率100%をキープ



相互実習の様子

3月1日（日）に実施された歯科衛生士国家試験の合格者が26日（木）、厚生労働省より発表され、本学衛生学院歯科衛生士学科の2019年度卒業生23人全員が合格を果たした。

本学院ではこれまでに1312人の歯科衛生士学科の卒業生を輩出しており、1977年の開校以来、合格率100%の優れた合格実績をキープし続けている。これも、大学・大病院という恵まれた教育、実習環境に加え、国家試験対策をふまえたカリキュラム、専任教員や歯学部教員

構視察者の先生方より運営、評価に関わる内容について詳細なご指摘、称賛をいただいた。2月18日（火）、受験者に対して成績が開示され、第5学年で行われる診療参加型臨床実習においてさらなる技能、態度向上のためのフィードバックが行われた。近年、医学教育においては診療参加型臨床実習に転換しつつあるが、歯学部学生が実際の診療に参加するためには、基本的知識、臨床技能を修得していることを大学が社会に説明する必要がある。そのため共用試験OSCEは学生の知識、技能、態度の適正評価ができるとともに臨床実習参画の妥当性を担保するものとなり、学生や大学にとって大変重要である。

最後にりましたが、今年度OSCEを実施するにあたり準備、設営段階より多大なご協力、ご尽力を賜りました多くの職員の皆様へ厚く御礼申し上げます。なお共用試験の年度表記は受験者が臨床実習を行う年度（第5学年時）となるため2020年度と表記しております。

OSCEを実施するにあたり準備、設営段階より多大なご協力、ご尽力を賜りました多くの職員の皆様へ厚く御礼申し上げます。なお共用試験の年度表記は受験者が臨床実習を行う年度（第5学年時）となるため2020年度と表記しております。

OSCEを実施するにあたり準備、設営段階より多大なご協力、ご尽力を賜りました多くの職員の皆様へ厚く御礼申し上げます。なお共用試験の年度表記は受験者が臨床実習を行う年度（第5学年時）となるため2020年度と表記しております。



説明会で挨拶する宇田川信之歯学部部長（右）と筆者

Alumni News

松本歯科大学校友会

福岡県支部

8期生・木村英生先生が講演 「日常臨床における下川エンドへの取り組みについて」



講演される木村先生

2月1日(土)、福岡県歯科医師会館にて福岡県支部の例会および学術講演会が行われた。令和元年度から新しく、鳥尾紀昭支部長(7期生)が就任して初めての例会・講演会となり、2、42期生まで幅広い年代から36人の参加者があった。

はじめに支部長より福岡県支部のこれまでの経過とこれからの活動についての報告があった。また、本学の実習館・体育館耐震化工事に対する寄付について

①物理的・解剖学的制約が大きい
②ミクロの対象物にマクロ的手法で対応せざるを得ない
③不可視領域は盲目的操作に頼らざるを得ない
④治療の各ステップが100%達成されたという確証が得られないまま、次のステップに進まざるを得ない
⑤主観による誤った治療結果判定が許され続けてきたことがある



福岡県支部会員

2月21日(金)と22日(土)の両日、2019年度松本歯科大学病院臨床研修歯科医による症例報告会が図書会館2階学生ホールにおいて開催されました。開式の辞で黒岩昭弘研修管理委員長は、「臨床研修開始から1口腔単位、あるいは全身管理を長期症例を提示しながら、エンド術後の診断基準・根管治療における閉鎖根と吸収根の分類・歯根膜治療能力の積極的な活用や、エンド治療における手技紹介などわかりやすい解説があった。」

講演会後の懇親会には、元本学口腔外科学第1講座・助教授の亀山嘉光先生も参加された。特に若い世代の参加者が多く、情報交換や談義が活発に行われ、今後福岡県支部の活動が活性化していくことが期待される。

(福岡県支部 17期生 文森健二)

臨床研修歯科医が症例報告し活発な討論

臨床研修歯科医症例報告会

を含めた包括的診療を続けてきた成果をしっかりと発表してください。その成果を聴く先生方におかれましても、明日からの歯科診療にフィードバックできるような参考になさってください」と挨拶し、症例報告が開始されました。



症例報告を行う臨床研修歯科医

研修管理委員会委員の先生方がそれぞれ座長を務めて進行を担当し、各臨床研修歯科医が、主指導歯科医を中心とした指導の下で行ってきた1口腔単位を考えた診査、診断からの治療計画立案を行い、診療中の葛藤を交えながら、診療の成果とこれからの目標について発表しました。

に対して称賛ならびにこれからの診療研鑽への激励のコメントをいただき、盛会のうちに終了しました。

ここで発表を行った臨床研修歯科医は3月23日(月)、臨床研修修了式に臨み、一人ひとりに修了証が授与され、無事に臨床研修を修了するとともに4月から新たな歯科医師として旅立ちました。

校友の先生方から、本学病院臨床研修を修了した歯科医師へさらなるご指導・ご鞭撻をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

最後は研修管理副委員長の山本昭夫教授、安西正明教授、森啓准教授から各臨床研修歯科医

(研修管理委員会 プログラム1責任者 音琴淳二)
(総合口腔診療部門 教授)

東京都支部 診療所スタッフ交え医療安全講演会

日本大学歯学部附属歯科病院・見崎徹先生

「それでも遭遇した場合の緊急時の対処法」

東京都支部学術講演会が2月1日(土)、世田谷区砦の成城ホールにて、日本大学歯学部附属歯科病院歯科麻酔科科長の見崎徹先生にお願いし、各診療所のスタッフも交えて「医療安全講演会」として行われた。

日本では局所麻酔が年間5500万回行われている。そのなかでアナフィラキシーショックの報告が5、30例ほどある。喘息様の症状はアナフィラキシーショックによる気管閉塞が疑われ、5分で心停止に陥る。都内では救急車到着まで8分かると言われている。救急蘇生を伴

う医療事故に日々の診療のなかで遭遇することはほとんどないと思われるが、その時の数分間の対応で患者さんの人生も先生方の人生も大きく左右されることを肝に銘じておかなければならない。

実際の現場では、担当医はパニックに陥りほとんど役に立たず、周りのスタッフが的確にかつ冷静に対処することが大切である。安全確保にはスタッフの力が重要で普段から、薬剤の管理、酸素の使用法、定期的なトレーニングが必要となる。今回はアンビュマンを使い心臓マッ

サージ、AED等の実習も行われた。緊急薬剤の筋注の実習、「エビペン」の使い方も体験していただいた。

東京都支部では年1回の学術講演会を行っている。他に関東近県の先生方と学術講演会、ゴルフコンペも行っている。しかし、これらの事業に参加してくださる先生はごく一部の先生方になっている。同窓の行う事業には他の講演会では味わえないフレンドリーな側面がありちょっとした恥ずかしい質問にも親身に答えていた。たまたま参加すると久しぶりに懐かしい

顔に会え、その後の懇親会では昔話に花を咲かせて学生時代に戻れる。そんな息抜きの場として参加していただけるような敷居の低い事業を行っていますので積極的に利用していただきたいと思います。

(東京都支部 5期生 鈴木一郎)

サージ、AED等の実習も行われた。緊急薬剤の筋注の実習、「エビペン」の使い方も体験していただいた。

東京都支部では年1回の学術講演会を行っている。他に関東近県の先生方と学術講演会、ゴルフコンペも行っている。しかし、これらの事業に参加してくださる先生はごく一部の先生方になっている。同窓の行う事業には他の講演会では味わえないフレンドリーな側面がありちょっとした恥ずかしい質問にも親身に答えていた。たまたま参加すると久しぶりに懐かしい

鶴見大学・三島弘幸先生が講演
「メラトニンと象牙質形成に関する最新の成果」

第393回大学院セミナーが2019年12月10日(火)、実習館2階大学院セミナー室において開催され、鶴見大学歯学部歯科理工学講座の三島弘幸先生を講師にお迎えして、「メラトニンと象牙質形成に関する最新の成果」という演題でご講演いただいた。

三島先生は、1974年に東海大学海洋学部海洋資源学科を卒業後、Biomaterialization(生物の鉱物形成)の不思議に魅了され、そのためには解剖学を学ぶ

必要があったことから、日本大学松戸歯学部第二解剖学講座に入職された。当時、国内における歯の硬組織研究の泰斗であった故・平井五郎教授のもとで、象牙質の成長線と石灰化の研究に取り組みされた。研究成果が海外に広く知れ渡り、91年にサウスカロライナ州立大学に留学された。高知学園短期大学で教授を勤められた後、現在は鶴見大学でBiomaterializationの不思議を究明し続けている。

象牙質は、月相(月の満ち欠けなどの外的要因)と自律神経

(口腔解剖学講座 准教授 田所 治)

Economic News

内外の経済 3月27日付

株価	日本	米国
日本	18,934.26円	22,552.17ドル
金店店頭価格 (消費税込み)		
買い (1グラム)	6,320円	
売り (1グラム)	6,189円	
白金店店頭価格 (消費税込み)		
買い (1グラム)	3,004円	
売り (1グラム)	2,873円	

東京外国為替相場と各国定期預金金利 (3カ月物)		
米ドル	109.66円	0.20%
英ポンド	133.38円	0.10%
ユーロ	120.91円	0.01%
スイスフラン	113.93円	0.01%
タイバツ	3.43円	0.10%
日本円	—	0.01%

(SMBC 信託銀行HP等より)

人事異動	2月13日付	3月6日付
亀山 敦史	(副)臨床研修管理委員長	
芳澤 享子	(副)臨床研修管理委員長	
森本 梨紗	臨床研修管理委員長(副)	
土田 幸子	臨床研修管理委員長(副)	
根橋 寛実	臨床研修管理委員長(副)	
野本 享嗣	臨床研修管理委員長(副)	
洞澤 功子	臨床研修管理委員長(副)	
横井由紀子	臨床研修管理委員長(副)	
中島 靖子	臨床研修管理委員長(副)	

定年退職	3月31日付
平岡 行博	(教授) 歯学部口腔外科学講座
山田 一尋	(教授) 歯学部口腔外科学講座
荻村 博文	(教授) 歯学部口腔外科学講座
丸山 雅久	(教授) 歯学部口腔外科学講座
山田 賢一	(教授) 歯学部口腔外科学講座
横山 幸代	(教授) 歯学部口腔外科学講座
奥原 徳子	(教授) 歯学部口腔外科学講座

本務変更	3月6日付
野澤 良子	臨床研修管理委員長(副)
山田 賢一	臨床研修管理委員長(副)
吉江みはる	臨床研修管理委員長(副)
矢ヶ崎 裕	臨床研修管理委員長(副)
鷹股 哲也	臨床研修管理委員長(副)
影山 徹	臨床研修管理委員長(副)
倉澤 郁文	臨床研修管理委員長(副)
岡藤 純正	臨床研修管理委員長(副)
黒岩 昭弘	臨床研修管理委員長(副)
川原 一郎	臨床研修管理委員長(副)

受験生の皆さんへ	一日体験入学
① 5月17日(日)	
② 6月14日(日)	
※ 5、6月開催分のみ掲載	
開催時間 9:40~15:00 (受付 9:15~)	
●キャンパスツアー ●ランチ体験	
●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など	
※ 参加希望の方は、本学ホームページまたは電話にてお申し込みください。	
■お問い合わせ■	
HOT LINE 0263-54-3210	
松本歯科大学 入試広報室	
www.mdu.ac.jp	